



1



2



3



4



5

特集

「つばめ」という名が紡ぐ縁。

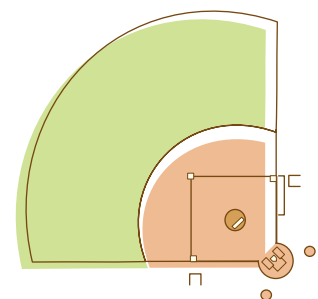
東京ヤクルトスワローズと燕市の交流・連携事業



東京ヤクルトスワローズのマスコットキャラクター「つば九郎」。2013年に就任した、燕市PR隊鳥（長）として、イベント出演や燕市のPR活動を積極的に行うなど大活躍。市のイメージアップに貢献しています。

子どもたちの成長とスポーツ振興に貢献

さまざまな活動を通じて東京ヤクルトスワローズとの交流を深めてきました。これまで行ってきた取り組みを紹介します。



「田んぼアート」でつば九郎を描くことから始まった交流・連携事業。その後も、ファンを呼び込む仕掛けとして、ファンと市民と一緒に田植えや稲刈りを楽しむ「スワローズ・ライスファームプロジェクト」や、ふるさと納税返礼品でも人気の「つば九郎米」の販売などが続きました。

そして、2013年には、つば九郎を「燕市PR隊鳥（長）」に任命し、都内を飛び出し燕市に初来燕（はつてん）を果たします。2015年には、明治神宮野球場で「燕市DAY」を初開催。約3万人の観衆の前で

燕市をPRしてきました。2023年には、市内小学生がダンスパフォーマンスを披露し、球場全体を盛り上げてくれました。毎年出展している「ファン感謝デー」の燕市ブースはファンから非常に人気を集めており、開店前から長蛇の列ができるほど。コラボグッズや農産物は全て完売し、大盛況となります。コラボグッズは、多くの市内企業などが開発に参加し、つば九郎スプーンやつば九郎焼酎など多くの人気商品が誕生しています。

特筆すべきは、PR活動に



これまで行ってきた主な取り組み

1 東京ヤクルトスワローズカップ少年野球大会

東京ヤクルトスワローズに縁のある「愛媛県松山市」、「宮崎県西都市」、「沖縄県浦添市」との4都市間で2013年から少年野球交流大会を開催しています。

2 つばみダンス教室

統合を控えた旧松長小学校と小中川小学校の交流を深めることを目的に開催。子どもたちは練習を積み重ね、「燕市DAY」でダンスを披露しました。

3 スワローズ・ライスファームプロジェクト

燕市役所付近の田んぼで2012年からさまざまなゲストを呼び、田植えイベント・稲刈りイベントを開催し、ファン同士の交流を図っています。これまで約2,400人が参加。

4 つばめ野球クリニック

市内の少年野球チームを対象に野球教室「つばめ野球クリニック」を2015年から開催しています。現役選手やOBが直接指導を行い、延べ約1,400人の子どもたちが参加。

5 ヤクルトスワローズ新潟支会つばめ会

県内外問わず、東京ヤクルトスワローズを支援する人で結成された会。イベント情報をいち早く配信するほか、イベント毎にさまざまな会員特典が付与されます。（6月末時点の会員数843人）会員登録はこちら▶



キッカケは、
2010年の出来事



2010年9月、明治神宮野球場で開催されたプロ野球公式戦において、新潟県観光協会が「うまさぎつしり新潟DAY」を実施しました。

その際、燕市はホームラン賞として燕市産コシヒカリ「飛燕舞」と「燕市産金属洋食器」を選手にプレゼントしたほか、来場者へも「飛燕舞」などを販売しました。それが、ファンや球団関係者の目に留まり「つばめが高空を高く舞うイメージで縁起がいい」と評判になり、東京ヤクルトスワローズと燕市の「つばめ」という名の「縁」が繋がったきっかけになりました。

翌年から燕市の「イメージアップ」「ファンづくり」を目的として、交流・連携事業が本格的にスタートしました。



▲飛燕舞のパッケージ